

県内では県立高校の特色選抜が先週行われました。今日はその内定の日ということで、各高校から中学校へ合格内定者が伝えられました。そして本校では毎年、その日に合わせて、入学意思確認書を提出した附属中3年生に佐野高校への「内定通知書」を交付しています。この後、私から各クラス代表の生徒に渡しますので、他の皆さんは教室に戻ってから担任の先生から受け取ってください。

さて、今日は2月15日ですから、約1ヶ月後には中学校を卒業します。その間に、高校入試の一般選抜がありますので、登校する日数は残り20日を切っています。あっという間に卒業式そして高校への入学ということになります。短い期間ではありますが、高校生になるための覚悟をしっかりと固めておいて下さい。中学と高校の段差は思った以上に大きいです。

そこで、皆さんには、まず、中学と高校では、学習面でどのような違いが出てくるのかをお話しようと思います。

中学校までは義務教育ですので、学びの基礎や土台を築くため、全員が全ての教科を同じ時間数で学習してきました。

それでは、高校に入るとどうなるのでしょうか。主な違いを3つ説明したいと思います。

一つ目は、学習内容がより高度になる、ということです。

高校では、中学で身に着けた学びの基礎や土台の上に、さらに専門的な学習を行います。例えば、中学では、「理科」という一つの教科が、生物、化学、物理、といったように、より高度で専門的な学習になります。さらに、同じ生物でも、1年生の時は「生物基礎」を学び、2年生で生物を選択すると、基礎が名前に付いていない「生物」を学ぶことになります。

簡単に言うと、学習の難易度は確実に上がっていきます。ちょっと脅かしてしまったかもしれませんが、高校に入れば、まず、

教科の担当の先生から、学習の仕方の説明がありますから、それほど心配する必要はありません。皆さんが今できることとしては、中学で学んだことをしっかりと身に付けておいて欲しい、ということです。中学での学習の頑張りは、高校の学習の頑張りに比例する、と考えても間違いではありません。

二つ目の違いは、中学までは全員が同じことを学んできましたが、高校では一人一人が違う内容を学習するようになってきます。1年生の時は、ほぼ全員が同じ教科を学びますが、唯一、芸術では、美術か音楽か、どちらか一つを選びます。さらに、2年生に進級する際には、大きな分岐点があります。あなたが将来、どんな職業に就きたいか、あるいはどんなことを学びたいか、によって2年生で学習する内容が大きく変わってきます。

分かりやすい例として、あなたが、将来、医者になりたい、という希望を持っていたとします。医者になるためには、医師免許が必要ですね。この医師免許を取得するには国家試験を受けなければなりません。大学の医学部医学科を卒業しないと受験資格が得られません。つまり、大学の医学部医学科に入学しなければ、医者にはなれないわけです。本校では高校2年生に進級するときに、数学や理科などの教科を多く学ぶ理系に行くか、国語や社会などの教科を多く学ぶ文系に行くかを決めることになります。医学部を受験するためには、2年生になるときに、理系を選ばなくてはなりません。また、理系でも、理科は化学は全員が学びますが、物理と生物については、どちらかを選択することになります。

つまり、高校では、将来の職業や、興味関心などに応じて、勉強する内容を自分で選んでいくことができるのです。その結果、高校を卒業するときには、一人一人が全く違う進路を選びます。中学では、みんなが同じ学習をしていましたが、高校では、2年生、3年生と学年が上がるごとに、一人一人が違う学習をするようになってきます。

高校生は自分のことや社会のことを、中学生の時よりも、深く考えることが出来るよう成長していますので、自分の責任で自分

で選べることが多くなっていきます。これは、中学校とは大きく異なる点です。

続いて、3つ目の違い、について説明します。高校は中学と違って義務教育ではありませんので、勉強しないで進級や卒業はできません。制度上の違いということになります。

具体的に説明すると、進級や卒業するためには、まず、国語や数学といった授業を受けなければなりません。当たり前ですよ。ところで、高校では授業内容を身に付けるには、1年間の授業時数の3分の2以上出席しなければならないと決められています。このことを難しい言葉で、「履修する」といいます。逆に言うと、年間の授業時数の3分の1以上の欠席があると、その授業を年間を通して受けたことにならない、つまり、履修したことにはならないのです。

また、授業時数の3分の2以上出席すれば、それだけで進級、卒業ができるわけではありません。授業時数の3分の2以上出席した上で、定期試験などの成績で合格点に達していることで、その授業を身に付けたとみなすことが出来ます。このことを、難しい言葉で、「修得する」といいます。

つまり、高校では、授業時数の3分の2以上出席することで、履修したことになり、さらに試験で合格点の成績を収めることで修得したとみなすことになっています。最終的に、その教科の授業を修得するには、3分の2以上の出席と試験の成績という2つのハードルをクリアする必要があるのです。授業に3分の2以上出ていなければ、いくら試験だけができて、履修がなされていけませんので、修得にはなりません。

それらがクリアできないと、原則として進級や卒業ができない、ということになります。かなり厳しいと感じるかもしれませんが、これが現実です。入学時に配布する生徒手帳の中に「佐野高等学校学則」がありますが、第14条から第18条に、このことが明記されています。入学してから、そんなこととは知らなかった、ということがないように、あえて、皆さんにお話ししました。

(保護者の皆様もぜひ知っておいてください。)

最後に、皆さんに是非お願いしたいことをもう一つ話します。
4月から佐野高校の1年生となるのは、ここにいる皆さんだけでは
ありません。今回の特色選抜と一般選抜で合格する、附属中以外
の中学校を卒業した生徒たちと皆さん合わせて、令和3年度の
佐野高校1学年がスタートします。でも、これは、ここにいる皆
さんに他の中学校からの生徒が加わる、ということではありません。
附属中も佐野高校への入学内定者、合格者のいる中学校の一
つに過ぎない、ということを忘れないでいてください。ちなみに、
栃木県の中高一貫教育校では、附属中からの入学者を「中入生」、
高校入試を経て、高校から入学する生徒を「高入生」と呼んでい
ます。

さらに、高入生をよそ者の発想で考えたり、自分はこの学校
4年目だからというような発想は絶対にしないでもらいたいと思
っています。附属中を含む中学校を卒業した入学生で、新たな気
持ちで、協力して佐野高校の新しい歴史を築いていって欲しいと
思います。

繰り返しますが、皆さんが特色・一般選抜で合格した人達を迎
えるではありません。附属中の皆さんも、特色・一般選抜で合
格した中学生の皆さんも同じ新入生として佐野高校が迎える、そ
ういう気持ちが必要です。そのための区切りとして、卒業式を行
いますので、それを忘れないでください。よろしくお願いします。

さて、今年も高校3年の先輩方はそれぞれが希望する進路実現
に向けて頑張ってくれています。皆さんも、充実した高校生活を送
れるよう、しっかり準備をしておいてください。

これで校長からの話は終わりです。